

---

# **追憶の時～イロ者少年少女シリーズ番外編～**

汀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

追憶の時～イロ者少年少女シリーズ番外編～

### 【Zコード】

Z0274E

### 【作者名】

汀

### 【あらすじ】

汀の『イロ者少年少女シリーズ』、題名の通り番外編です。短編のはずが前後編となりました。ベルモットとオリキャラ3名が出ます。初見の人でも、一応話自体は理解できるように作っています。組織壊滅前と組織壊滅後、ある看護師とその妹の話です。

「FBIに撃たれてアバラ折ったんですか～、大変でしたね～」

全く大変そうでない雰囲気で、その看護師はのんきに言った。

組織のアジトの医務室横にある、病室エリア。

その一室で、ベルモットは危うくキレそうになる。

担当看護師は、若い、ショートヘアの女。

緊張感が無くフワフワした感じで、犯罪組織の看護師だとは思えなかつた。

当然、その雰囲気のままに、あっさりと医療ミスをやらかすのではないかと思つてしまつ。

何でこんな女が担当に……

心の中で毒づきながら、ベルモットは強くシーツを握りしめる。きのうアバラを折った身、大声を出すのは自分が疲れるだけだ。

ベッドの上で目を閉じて、彼女はこのケガを早く治そうと決意した。

入院生活を早く終えるに越したことない。

……そつなれば、この頼りんなそつな女から離れられる。

FBIの赤井に撃たれた翌日、病室の思い出。

重要なことではなく、更に言えば嫌な記憶。

ケガが完治して、退院、現場復帰、更に色々あって……

もはや忘れていた。

組織が滅び、自身は逮捕され、大変な状況が続き。

だから、組織壊滅から1年以上経ち、看護師の意外なその後を知るとは、思つてもいなかつた。

「ベルモット、貴女は入院したことがあると聞いた。

……FBIに撃たれて入院した、と」

「それがどうかしたの？」

後部席からの、17歳の眼帯の女の問いかに、ベルモットはこう答えた。

以前ジンが所有していたポルシェの、車内。

この車の今の所有者は、ジンではなく名無しの男で、

……ちなみにその名無し野郎は、現在運転席に座っている。

「アジトの医務室そばの病室に、入院したのか？」

「ええ」

「担当看護師がどんなヤツだったか、覚えているか?」

「それは……、

短い髪で、世間知らずみたいで、フワフワした子だったわね」

「体格は?」

「小柄だったわ」

眼帯の女 六鷹綾乃は、小さく息を吐いた。

「じゃあその看護師は私の姉だ。

……姉はそこで働いていた」

「え……、名前は?」

信じられなかつた。

雰囲気は全く異なる上、間違いなく綾乃の身長は、あの時の看護師を大きく超える。

「信乃、六鷹信乃だ。

ちなみに享年は19」

享年、ということには。

「……亡くなつたの?」

言葉を選んでいるのか、綾乃の返答は数瞬遅れた。

「黒の組織のアジトが火災で燃えた時、姉は火傷を負つた。

警察病院で入院していたが、……退院目前になつて屋上から飛び降りた。

……もつとも、警察の警備が甘かつたのか、姉が警備を超える実力を持つていたのかは知らないが

「えつ？」

今度こそベルモットは驚いて、思い切り振り向く。  
知つているのだ。

飛び降り自殺をした19歳の彼女が、その前に何をやつたのか。

ベルモットが言いたいことが分かつてゐるのだろう、綾乃は頷く。

「姉は、……組織内に保管されていた構成員データに火をつけた。  
逃げ遅れて火傷して、……組織壊滅の後に自殺した。  
犯行時も死亡時も未成年で、本名は報道されていない。  
早々に逮捕された貴女は、知らなかつたんだろう？  
放火犯が看護師で、……私の姉だということを」

「……ええ」

## 前編（後書き）

あとがき

後編は現在推敲中、明日投稿予定です。

以下、どうでもいい補足です。

冒頭の入院シーンの「FBIに撃たれてアバラ折った」というのは、ベルモットが港で赤井に撃たれた事件を指します。

時期的にはベルモット＝新出先生だったのがばれた後ですね。

かつて、大きな犯罪組織があつた。

1年以上前にアジトが燃え、滅び、

……しかし完全には、構成員が捕まらなかつた組織。

組織壊滅直前に、アジトの資料置き場に放火した者がいた。

その結果、構成員データは復元不可能な状況になつた。

警察は、構成員達に関する一番の手がかりを失つた。

それでも、組織の幹部達の状況は違つた。

放火されたのは、あくまでも日本のアジト。

外国の構成員データに、日本のような損傷は無かつた。

あの組織の幹部たちは、大抵、外国のアジトにも関わる。

だがそれは、現地のデータベースに自分達の情報が残るということだ。

日本の警察は、外国の警察から幹部たちの情報を得たのだという。

かくて多くの幹部が捕まり、一方でかなりの末端の構成員が野に放たれる。

……日本に限つた話であるが、今も未逮捕の構成員が多数いる状況は変わつていない。

その組織に正式名称は無い。

だが通称はあつた。

ベルモットがよく知る探偵が、付けた名前。

その犯罪組織は、『黒の組織』といつ。

構成員のデータに火をつけたのが、19歳の女だとは知っていた。その女が火傷で入院し、しかし退院前に自殺したことも知っていた。

……だがベルモットは、これまで、それ以上の情報を知らなかつた。

漠然と、組織に対する忠誠心が強い子なのかと思っていた。捜査妨害のために放火し、その後組織壊滅に絶望して自殺した子。忠誠心に裏打ちされた気の強さを持つ、……そんな女だと。

かつてジンが所有していたポルシェの中。今の所有者であり、運転席に座るネームレスが突然に口を開いた。ベルモットが嫌う、白髪にミラーシャードの名無しの彼は、口角のみを上げた笑い顔で。

「意外な話だろ？」

信乃は、放火や自殺をやらかしそうなやつじゃない

「……確かに意外ね」

「僕の教え子だつたんだ、信乃は。

ベルモットなら知ってるだろうけど、僕は組織内で教官をしていた。

もつとも、信乃が17歳になつて、僕の教え子じやなくなつたけれど

嫌いな男に、思わず皮肉を言いたくなつた。

「その教官が、組織の残党使つて新しく犯罪組織を作つたことも意外に思うのだけど？」

拘置所にいる人を誘拐するだけの技能を持っていたのも、もつと意外よ。

そんな技能があること、私は知らずにいたのに

……もし誘拐されるリスクを知つていたら。

あり得ない仮定だが、ベルモットは考えずにはいられない。

この名無し野郎に誘拐されたのに、被害者でなく、脱獄容疑者として手配されている我が身。

無理矢理この男に従わされていることは、彼女にとつてかなりの屈辱だ。

「落ち着こうよベルモット、信乃の話に戻るよ？

結局のところ、僕も信乃も綾乃も、……組織に縛られたままなんだよ。

綾乃是忘れられないだろ？ 組織のこと

「忘れるわけがない。

……貴女はどうなんだ、ベルモット」

「私は……」

ベルモットは言葉に詰まり、しかし数瞬の後に肯定した。

苦しい記憶であろうと、忘れるわけがない。

それを聞いた運転席のネームレスは笑みを濃くし、

そして、……後部席の綾乃是沈黙する。

会話の間も走り続けるポルショの中で、ベルモットは考え込んだ。

会話のきっかけは、前触れもなく、綾乃が姉に関する話題を振つたこと。

綾乃是このことを誰かに話したかったのだろうと、ベルモットはアトマトそう思つ。

あの看護師が何を思つて行動したのか、正確なことは誰にも分からりよつがない。

だが間違いなく言えるのは……、

つらいことであるうと、忘れられない記憶があるところじだ。組織に関わった者ならば、誰もがそんな記憶を持つのだろう。

特に黒の組織で育つた綾乃にとって、家族の記憶は組織の記憶と同義だ。

きつと忘れると言わても忘れないだらう。

その記憶は間違いなく、綾乃の一部なのだから。

だけども、組織のことを覚えてこないとは、イコール組織に縛られていることなのだろうか。

おやぢへ過去の記憶に縛られるところじせ、ひつひつ出来事を思い出す時に苦しくなるところじで、

と、そこまで考ふ。

今度は振り返り、ベルモットはリラバー越しに後部席を見

る。

苦しんでいるのかは分らないが、少なくとも性別の割に屈強な体格の眼帯の女は、感傷の中で姉を追憶しているように見えた。

あとがき

リハビリ明けに書いた習作。

雰囲気がどれだけ書けるかということで挑んでみました。

以下、どうでもいい補足です。

信乃は看護師として組織内で働いていましたが、正規の看護師資格を持つていたわけではありません。

組織内で看護訓練を受けた、あくまで組織のためだけの看護師でした。

看護師として適性を問われたのではなく、犯罪者に向いてなさそうなので、幹部がそうじやない訓練を受けさせた……という設定です。

（ちなみに訓練期間は17歳から19歳までの2年間）  
ですが意外なことに、彼女は誰よりも組織の構成員らしいことをやらかして、死んでいきました。

あと時系列がややこしいので一応書いておきます。

一読しただけじゃ分かりづらいと指摘がありましたので。

- ・ベルモット、赤井に撃たれて入院。
- ・この時担当看護師が信乃。
- ・ベルモット退院・現場復帰。
- ・（しばらくたつて）組織壊滅。
- ・信乃、構成員データに放火、逃げ遅れて火傷を負う。

警察に保護され警察病院に入院。

・（その直後）ベルモット逮捕

・（ほぼ同時）組織の教官だったネームレス、新しく犯罪組織を作  
る。

信乃の妹である綾乃も、その組織の構成員となる。

・退院目前の信乃、警察病院で飛び降り自殺。

・（壊滅から1年以上後）

ネームレス、ベルモットを拘置所から連れ出す。

実質的には誘拐だが、脱獄事件として警察は捜査開始。  
ベルモット、ネームレスに従つはめに。

ちなみにベルモットが自首しない理由は、そうすると極刑受ける  
恐れがあるという事情もありますが、  
再び逮捕され独房に入つても、またネームレスに誘拐されるから  
たぶん無駄、  
……という考え方もあると思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0274e/>

追憶の時～イロ者少年少女シリーズ番外編～

2010年10月8日12時59分発行